

東京工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	文章表現法I					
科目基礎情報											
科目番号		0039		科目区分	一般 / 必修						
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1						
開設学科		電子工学科		対象学年	1						
開設期		後期		週時間数	2						
教科書/教材		『基礎から学べる文章カステップ 文章検 2 級対応』(日本漢字能力検定協会), 『大人の語彙力が面白いほど身につく本 LEVEL 2』(青春出版社)									
担当教員		船戸 美智子									
到達目標											
1.文章表現で用いる文体・表記・用語などを適切に選択できる。 2.レポート作成の基本的な知識(構成・引用・使用する語彙など)を身につける。											
ルーブリック											
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安(可)		未到達レベルの目安			
評価項目1		書きことばと話しことばの違いを、文体・語彙などの観点から説明できる。		書きことばと話しことばの違いを説明できる。		書きことばとはどのようなものかを説明できる。		書きことばと話しことばの違いが分からない。			
評価項目2		レポート作成にあたって、レポートの構成を考慮し、参考文献一覧や先行研究からの引用など、必要な情報を明示できる。		レポート作成にあたって、参考文献一覧や先行研究からの引用など、レポートの形式面を満たすことができる。		レポート作成にあたって、レポートの構成を考慮することができる。		レポート作成にあたって、レポートの構成を考慮できず、参考文献一覧などの形式面も満たすことができない。			
学科の到達目標項目との関係											
教育方法等											
概要		現代社会は、インターネット環境の整備・普及以来、誰もが日常的に自分の意見を自在に書き、発表することが可能となった。しかし、改まった場でどう振る舞えばよいのか、誰もが一度は当惑するように、改まった文書を書く必要に迫られたとき、どのようなことばを使えばよいのか、誰もが一度は悩んだことがあると思われる。そこでこの授業では、社会人として正しい表現を用いながら、基本的なレポートを作成できる力を身につけることを目指したい。									
授業の進め方・方法		テキストを中心に演習を行いながら、受講生諸君の発表と教員からの解説を中心に進めていく。疑問点は授業中に解消できるよう、質問がある場合は、皆で議論することも含めて、積極的な発言を求めたい。									
注意点		この授業では、事前に提示される課題への取り組みが重要となってくる。課題への取り組みを中心とした自学自習の習慣を身につけること。 小テストは欠席すると0点となるので注意すること。いかんともしがたい事情があつて追試験を希望する場合は、その旨を書面などに記したうえで申し出ること。									
授業計画											
		週		授業内容		週ごとの到達目標					
後期		3rdQ		1週		ガイダンス				授業の進め方と成績評価の方法を理解する。	
				2週		語彙・文法				語彙の意味を正しく理解し、書き方のルールを理解することができる。	
				3週		待遇表現 1 敬語のはたらき				敬語の三つの用法を使い分けすることができる。	
				4週		待遇表現 2 改まった時の表現				文書の中で、敬語を適切に用いて表現することができる。	
				5週		横書き文書・メールの作成				横書き文書の定型を理解し、メール等を適切に表現することができる。	
				6週		レポートの構成・表現のしかた				レポートの作成に必要な基本的な構成や表現のしかたを身につける	
				7週		レポートの事例				レポートの事例を下に、何を書けば良いのか考えることができる。	
				8週		後期中間試験				ここまでの学習をふまえ、設問に対して的確に回答する。	
		4thQ		9週		後期中間試験 返却・解説 要約 1 要約作成のポイント				要約の基本のしかたを理解することができる。	
				10週		要約 2 要約作成				文章中の主張と例とを峻別し、制限字数内で要約を作成できる。	
				11週		要約 3 データの読み取り				レポートに必要なデータの読み取りや取り入れ方について身につける。	
				12週		論説文 1 読み取り・構成				執筆に際しての基本的な姿勢(節の構成と起承転結)を身に付ける。	
				13週		論説文 2 意見・事実・理由の関係 反論のしかた				論説に必要な主張の論理展開を理解することができる。	
				14週		論説文 3 論説文を書く手順				実際のレポート作成を念頭にして構成をまとめることができる。	
				15週		レポート提出				ここまでの学習をふまえ、レポートを執筆し、提出することができる。	
				16週		レポート返却・一年間のまとめ				一年間の学習を振り返り、2年生以降の学習に備える。	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標											
分類		分野		学習内容		学習内容の到達目標		到達レベル	授業週		
基礎的能力		人文・社会科学		国語		実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。		3			
						報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。		3			
						収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。		3			

				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	10	0	20	100
基礎的能力	70	0	0	10	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0